

職員による自己評価

A環境面

2019年3月に移転し、バリアフリー化。

B児童への支援内容

訓練室内が正方形に近く遮るものがないので、視界が広がり、見通しが良くなった。
肢体不自由の児童が歩行練習しやすくなった。
室内が広くなり活動ごとに離れて行くことが出来るので児童の集中力がアップした。

C関係機関との連携

管理者は、定期的な連絡会に参加。
児発管は、ケース会、連絡会などに参加。

D保護者への説明責任・信頼関係

問題点などがあった場合は管理者・児発管が保護者へ対応する。

E非常対応

非常時災害への訓練が少ない。
悪天候の場合の判断が遅い。
非常時での報連相がわかりづらい。

保護者による評価

A環境面

移転し、フラットな施設でとても良い。
清潔感が感じられる。
サービス提供時間について、延長があると望ましい。

B児童への支援内容

歩行練習の時間が多くなり、嬉しいです。
訓練室内の面積が広くなり、子供は楽しそうです。
児童が一人遊びしているようです。

C事業所からの情報発信

連絡帳や、毎日のブログで情報が見られます。

D非常対応

移転後の避難経路がわからない。
怪我や忘れ物があった時などの対応が遅い。

事業所内での分析

【共通点】

- ・施設が全面フラットになった事は良かった。
- ・室内が広くなった分、児童の居場所にばらつきがあり、職員の目が行き届かないことがある。
- ・非常時対応のマニュアル化がされていない。

【相違点】

今回のアンケートでは、施設的环境面に対しては職員・保護者共に良い印象があり相違はなかったと感じます。その分、移転後の職員間の共有や、支援方法の違いなどにばらつきが出てしまい、保護者さんの不安要素があった。

分析・検討してみたて…

事業所の強み

- ・事業所が全面フラットな事は、職員も児童も怪我のリスクが少ない。
- ・訓練室内に視界を遮るものがないので、児童の行動範囲が広くストレスにつながりにくい。

事業所の改善点

- ・非常時の対策が少ないので職員や保護者への周知を行う。
- ・避難訓練を行う。(パターンを作っておかないといけない。)

事業所の改善への取り組み

- ・事業所内でのミーティングを行う。
- ・職員間で避難訓練について話しあい、周知の上で児童と共に避難訓練を行う。そこで浮き彫りになった問題点を話し合う。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

事業所移転に伴い、オペレーションが変わり戸惑う事もあったが職員も児童も慣れてきている。室内の使用法、支援内容もミーティングで話し合ったりモックアップ前に意見を出し合ったりして共有化できるよう努めていかないといけない。